

高松市生涯学習センター 生涯学習推進事業（他団体との共催事業）
「食品ロスから考える SDGs と我が家の家計の見直し」を開催しました。

令和2年8月1日（土）、NPO 法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会香川支部共催のもと、大江崇子さんを講師にお迎えし、「食品ロスから考える SDGs と我が家の家計の見直し」を開催しました。



皆さん、SDGs（エス・ディー・ジー・ズ）という言葉聞いたことはありますか。SDGs とは、2015 年 9 月に国連「持続可能な開発サミット」で採択された、2016 年から 2030 年までの国際目標のことです。貧困を撲滅し、持続可能な世界を実現するために 17 の目標と 169 の具体的な取り組み方法が設定されています。今回は 12 番目の目標である「つくる責任つかう責任」に関係している“食品ロス”に焦点を当てて講座を開催しました。

農林水産省・環境省が出した H28 年度推計によりますと、我が国の食品ロスは 643 万トンあり、このうち事業系食品ロスは 352 万トン、家庭系食品ロスは 291 万トンだそうです。このことから分かるように、食品ロスを削減するには事業系・家庭系両方の取り組みが必要になります。では、私たちには何ができるのでしょうか。

まずは自分の買い方を見直してみしましょう。食べ切れる量・使い切れる量を買うように心掛けることで、家計にも環境にも良い影響を与えられます。ここで、講師が少し時間を取って、受講者に自分の家の冷蔵庫や食品庫に今何が入っているかを書き出してもらい、それを元に、試しに一週間の献立作成と今週買い足す食材の書き出しも行いました。実際に書き出してみることで冷蔵庫の中身を把握でき、無駄な買い物を減らすことに繋がります。こういう事をやる事で少しずつ食品ロスが減っていくそうです。また、講師は消費者庁がホームページに掲載している「食品ロスを減らす！食品お片づけ・お買い物マニュアル」はお薦めの為、ぜひ参考にしてみてください、ともおっしゃっていました。

家庭でできる対策を学んだ後は、社会でも食品ロス削減のために行っている取り組みについて教わりました。国内には、包装の破損や印字ミス等で市場には出せないけれども、安全に食べられる食品を企業などから寄贈してもらい、必要としている施設や団体、困窮世帯に無償で提供する活動である「フードバンク」を行っている団体がいくつかあるそうです。もし、興味があれば、個人でも食品寄贈できるそうですので活用してみてください、とのことでした。

最後に、講師から受講者へ「お金と物には、浪費・消費・投資という流れがあります。食品に限らず、物を買う基準は人により様々ですので、物を買う際は、浪費にならないように消費をどうするか考え、必要なら投資をしてください。」という言葉で講座を締めくくりました。

【参考】「食品ロスを減らす！食品お片づけ・お買い物マニュアル」／消費者庁／
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/efforts/